

会議・協議等記録簿

S-F3

配布先		なし		主催			福祉課		No. 1	
議事録名		佐久市保健福祉審議会障害者福祉部会		決裁	部長	次長	課長	係長	係	記録者
日時	平成25年1月21日(月) 13:00～13:32				開催場所	議会棟第1委員会室			時間	32分
出欠	佐久市保健福祉審議会障害者部会委員9名(3名欠)・職員10名									
13時00分 開会										
福祉課 (事務局)	<p>本日は大変お忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。ただいまより、佐久市保健福祉審議会障害者福祉部会を開会いたします。私は庶務係長の赤羽根でございます。審議事項に入るまでの間、進行を務めさせていただきますがよろしくお願いたします。なお、本日の障害者福祉部会につきましては、部会委員12名の委員さんのうち、9名の委員さんにご出席いただいておりますので、佐久市保健福祉審議会条例第6条第2項の規定によりまして、本会が成立しておりますことをまずご報告申し上げます。</p>									
部会長	<p>(部会長あいさつ)</p> <p>部会長を務めさせていただいております、佐久こまば学園長の中山でございます。よろしくお願いいたします。ご案内のとおり、これまで2回、第二次佐久市地域福祉計画(案)について皆さんに審議していただきました。今日がその3回目ということでございます。本会が終わりました後、13時35分から審議会の方で報告し、そこで審議をしたのち、市長さんの方へ答申するという状況です。皆さんにいろいろなご意見をいただき、そのご意見について事務局の方でまとめていただきまして、この後確認の審議ということになると思っておりますが、よろしくお願いいたします。</p>									
<p>・審議事項</p> <p>(1) 第二次佐久市地域福祉計画(案)について (資料 第二次佐久市地域福祉計画(案)(要約)) 前回の部会以降の経過及び追加した箇所、新たな取り組みを中心に説明。</p>										
< 質疑応答 >										
保坂委員	<p>保健補導員会の保坂でございます。市にはきめ細かく計画を立てていただいている中、実際自分の周りにもさまざまな状況の方がいて、いろんな子供さんを目にすることが多いです。市に携わる中、活字では目にしますが、どうやって相談したらいいかという方に声がけのタイミングが難しいと感じています。上手に対応できるように皆でなっていけるよう、進めていただけたらと思います。もう一つ、先日軽井沢学園を訪問する機会があったのですが、佐久市の子どもが多くいるということなので、検討していただけたらと思います。</p>									
吉川委員	<p>前日も申し上げてご検討いただいたことなので、また申し上げるのは恐縮ですが、私も何人かの人に聞いたのですが、「現役」という言葉をどう考えるかということです。生きていれば「現役」とは普通は考えないですね。やはり自分のことは自分でできると、その辺を「現役」とみるのではないかという意見が多いと思うんです。そうすると、この基本理念で「みんなが生涯現役—」というのは現役でいなさいよという、価値観がそこに生まれるわけですね。元気でいなさいよという。ところが、本来福祉というものは、元気でなくなった、自分のことが自分でできなくなった人に対してどういう福祉を考えるのが基本だと思うんですね。障がい者の問題でも、高齢者の問題でも。そうすると、「みんなが生涯現役で」と言われると、すみません私は現役ではありません、という人が佐久市の福祉から引いてしまう。何かすみません、という感じになってしまう。</p> <p>二次の前の第一次佐久市地域福祉計画を読ませていただくと、「みんなが生き生きと安心して暮ら</p>									

せるまちづくり」、これはすべての人に適応されることだと思います。ここで「生涯現役」という言葉を本当に使っているかどうかと、何人かに言われましたので改めて申し上げたいんですが、市の中で検討されたと言われましたので。皆さんどう感じられますか。

部会長

確かに現役という言葉、この前お聞きした時にそうかなというふう感じたんですけども、ただ、広く解釈していけば、障がいがあってもなくてもか、あるいは年をとっても若くても、一生その人の人間的な価値、と言えはおかしいんですが、人間としての尊厳があるわけで、それを支えていくのが福祉であるということですね。そういった面からすれば、生きていることがすなわち「現役」なんだと。捉え方からすればこじつけかもしれませんが、前回は踏襲してということでもありますので佐久市の考え方とすれば、生きていることそれ自体が、一人の人間として「現役」でいるという解釈であれば、納得できるかなと私自身は思います。ですから、いくら障がいがあっても、例えいくら寝たきりになって認知症になったとしても、その人の人格は変わらないわけですから。そういう観点からすれば、その人自身が「現役」なのであって、それを進め、支えることが福祉の本来の目的ではないかと。まあ、広く解釈していただければということですね。

江本委員

「生涯現役」を目標にしているんだということでしょうか。

事務局

そのような形で進めているところがございますので、よろしく願いいたします。

部会長

それではそういったことで進めさせていただきます。ありがとうございました。

(2)「佐久市障害者プラン」の策定について
事務局より今後の策定計画について説明。

(3)その他

事務局

2点ほどお願いしたいと存じます。まず、委員の皆様へ一言御礼のご挨拶をさせていただきたいと思っております。部会の委員の皆様方におかれましては、第二次地域福祉計画の策定に当たりまして大変お忙しい中、会議にご出席を賜りまして、慎重かつご熱心に審議を賜りました。お陰様で、この後の保健福祉審議会を経まして、本日答申をしていただける運びとなりました。本当に心より感謝を申し上げます。また、来年度はこの障害者プランの策定につきましても大変ご尽力をお願いするわけでございますが、重ねてよろしくお願い申し上げます。

もう1点、連絡事項になりますが、この後の保健福祉審議会におきまして、第3期の障害者福祉計画を配布させていただきますが、障害者福祉部会の委員の皆様方には、昨年9月の会議の中で配布させていただいておりますので、資料が重なります関係上、今回配布は省かせていただきますので、予め含みをいただきたいと思います。ありがとうございました。

部会長

以上をもちまして、佐久市保健福祉審議会障害者福祉部会を閉会といたします。どうもありがとうございました。